

# Exit-Win & XcopyGUI 操作ガイド

## 目 次

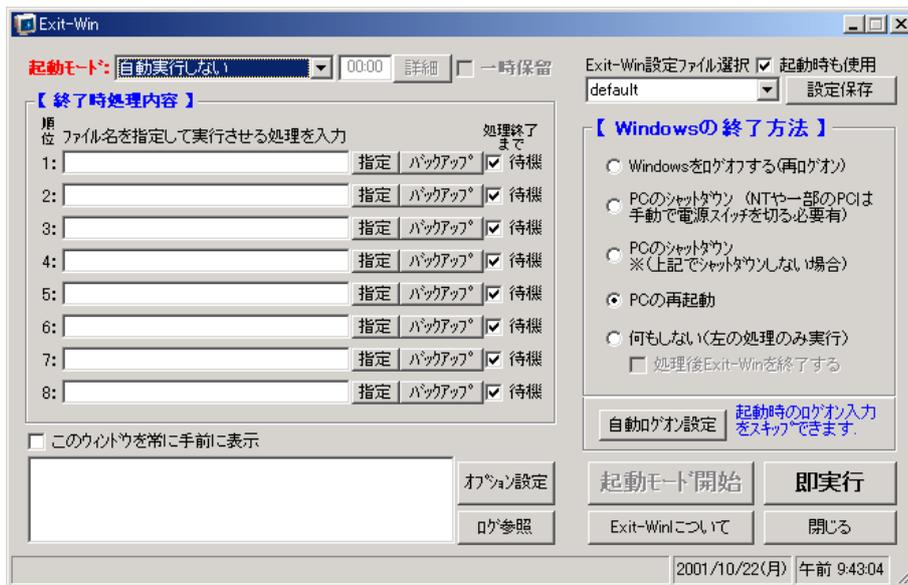
|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 1. Exit-Win と XcopyGUI の目的 .....    | 2  |
| 2. Exit-Win と XcopyGUI の基本操作.....   | 3  |
| 3. Exit-Win の画面説明 .....             | 6  |
| ◎スケジュール・オプション設定 .....               | 7  |
| 4. XcopyGUI の画面説明 .....             | 8  |
| 付録 A. Exit-Win よく使われるコマンド例 .....    | 9  |
| 付録 B. xcopy のパラメーター一覧 .....         | 10 |
| 付録 C. MS-DOS 画面とスキャンディスクの自動終了 ..... | 12 |

# 1. Exit-Win と XcopyGUI の目的

## ■Exit-WinはPC(パソコン)を自動シャットダウンするためのツールです。

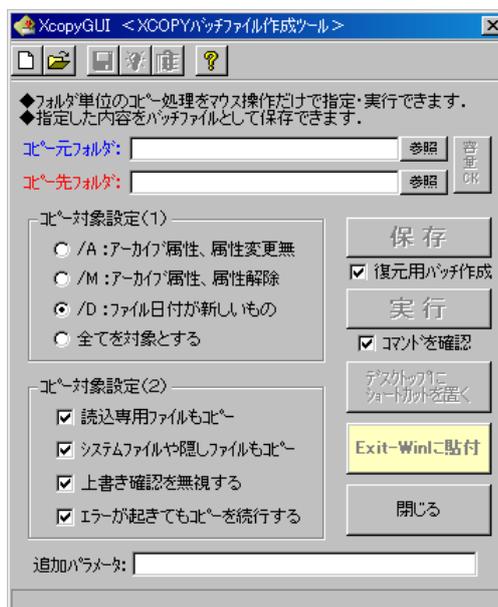
その際、特定の処理を自動実行させる機能が付加されています。

例えば、日々の作業を行った後、データのバックアップを行いながらPCのシャットダウンまで全自動で行うことが出来ます。バックアップの処理時間が長くても終わるまでPCに付きっきりになる必要はありません。自動でシャットダウンしてくれます。



## ■XcopyGUIはバックアップの指示をマウスで簡単に行うツールです。

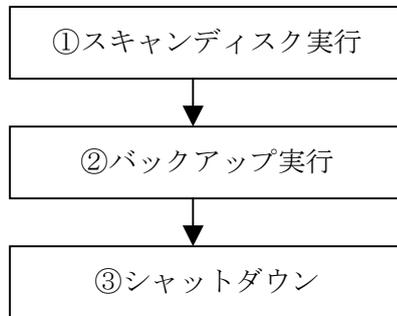
全ての Windows には標準で xcopy コマンドがあります。これはフォルダ毎のコピーが可能なコマンドですが、キャラクターベースのツールで一般の Windows ツールの様なグラフィカルな使い勝手がありません。それを可能にしたのが XcopyGUI です。(※GUIはグラフィカルユーザーインターフェースの略) このツールは単独でも使えますが、Exit-Win の開発から必然的に生まれたもので、Exit-Win と連動させて使うことができます。



## 2. Exit-Win と XcopyGUI の基本操作

例) 毎日指定時刻に自動シャットダウンを行う、その際スキャンディスクを行い、その後でデータのバックアップを行う。(注: Windows98 の場合)

上記の流れを図にすると下のようになります。



①スキャンディスクの処理は「指定」ボタンをクリックします。(下図)

【終了時処理内容】

| 順位 | ファイル名を指定して実行させる処理を入力                      | 処理終了まで                                 |
|----|-------------------------------------------|----------------------------------------|
| 1: | <input type="button" value="指定"/> バックアップ° | <input checked="" type="checkbox"/> 待機 |
| 2: | <input type="button" value="指定"/> バックアップ° | <input checked="" type="checkbox"/> 待機 |
| 3: | <input type="button" value="指定"/> バックアップ° | <input checked="" type="checkbox"/> 待機 |
| 4: | <input type="button" value="指定"/> バックアップ° | <input checked="" type="checkbox"/> 待機 |

実行ファイルを指定

ドライブ(D): c: [WINDOWS98]

ファイルマスク(M): \*.exe;\*.com;\*.bat

ディレクトリ(D): C:\, PROGRAM FILES, EXIT-WIN

ファイル(E): Exit-Win.exe, XcopyGUI.exe

Buttons: OK, キャンセル, Scandisk, Defrag, GetNetDat

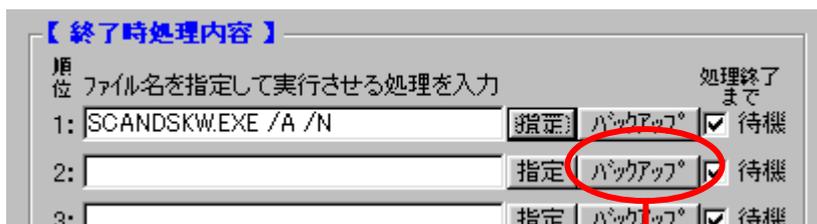
  

【終了時処理内容】

| 順位 | ファイル名を指定して実行させる処理を入力                      | 処理終了まで                                 |
|----|-------------------------------------------|----------------------------------------|
| 1: | SCANDISK.EXE /A /N                        | <input type="checkbox"/> 待機            |
| 2: | <input type="button" value="指定"/> バックアップ° | <input checked="" type="checkbox"/> 待機 |
| 3: | <input type="button" value="指定"/> バックアップ° | <input checked="" type="checkbox"/> 待機 |
| 4: | <input type="button" value="指定"/> バックアップ° | <input checked="" type="checkbox"/> 待機 |

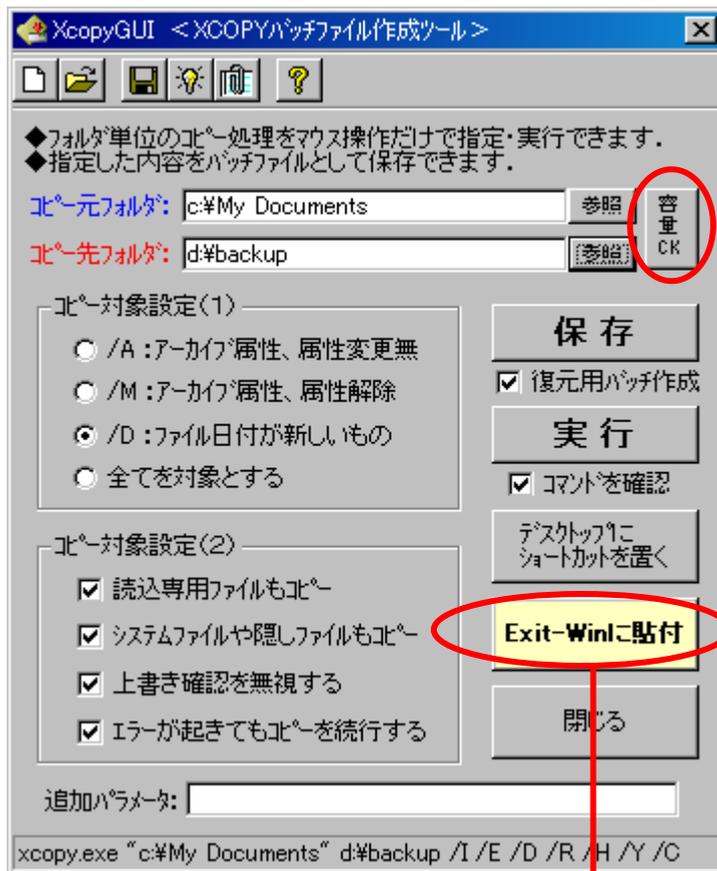
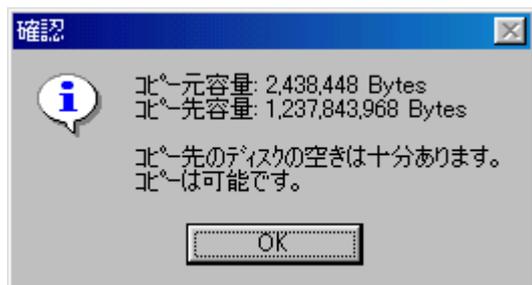
「待機」のチェックを外すと、スキャンディスクの終了を待たずに、次の処理を行います。

②バックアップは XcopyGUI を使って指定します。下図の「バックアップ」ボタンをクリックします。



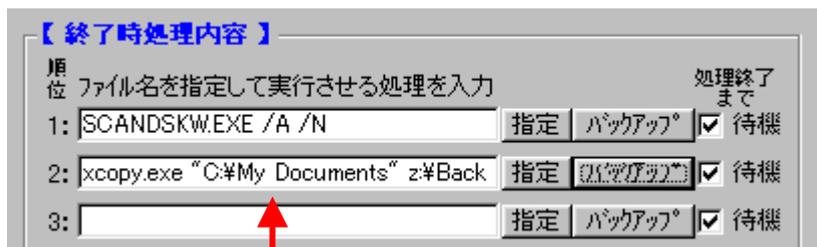
右図が XcopyGUI の起動画面です。  
コピー元フォルダにバックアップ対象のフォルダを指定し、コピー先フォルダにバックアップ先のフォルダを指定します。「参照」ボタンでフォルダ指定できます。

「容量 CK」ボタンはコピー元フォルダの全容量がコピー先ドライブの空き容量に収まるか確認するものです。(下図)



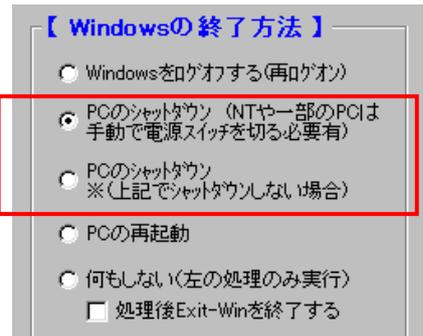
コピー対象設定(1)と(2)を指定することでバックアップ対象を制限可能です。  
これ以外は「追加パラメータ」に指定します。※その他パラメータは巻末付録参照。

指定が完了したところで、「Exit-Win に貼付」をクリック。処理内容が自動でセットされます。(下図)



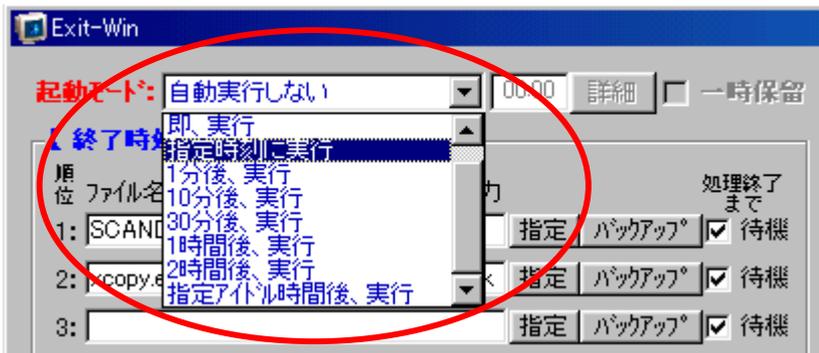
③シャットダウンは【Windowsの終了方法】から選択します。

シャットダウン(電源 OFF)は右の2つのどちらかを選択します。  
一度テストしてみてください。  
※ なお、ハードやOSによって手動で電源 off しなくてはならないものもあります。

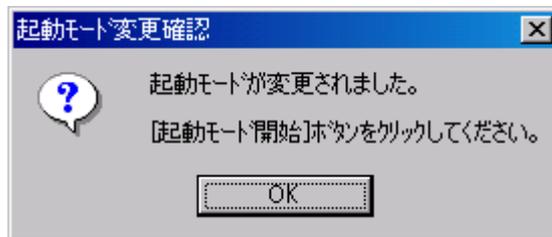


◎これまでの指定で処理の流れは完了です。後は指定時刻に自動実行させる設定を行います。

1. 「起動モード」から「指定時刻に実行」を選びます。(下図)



2. 下図のような確認メッセージが現われますが無視します。



3. 下図の赤丸の中の時刻を 24 時間制で指定します。この時刻に処理が行われます。



4. 最後に「起動モード開始」ボタンをクリックします。(下図)



以上で完了です。

### 3. Exit-Winの画面説明

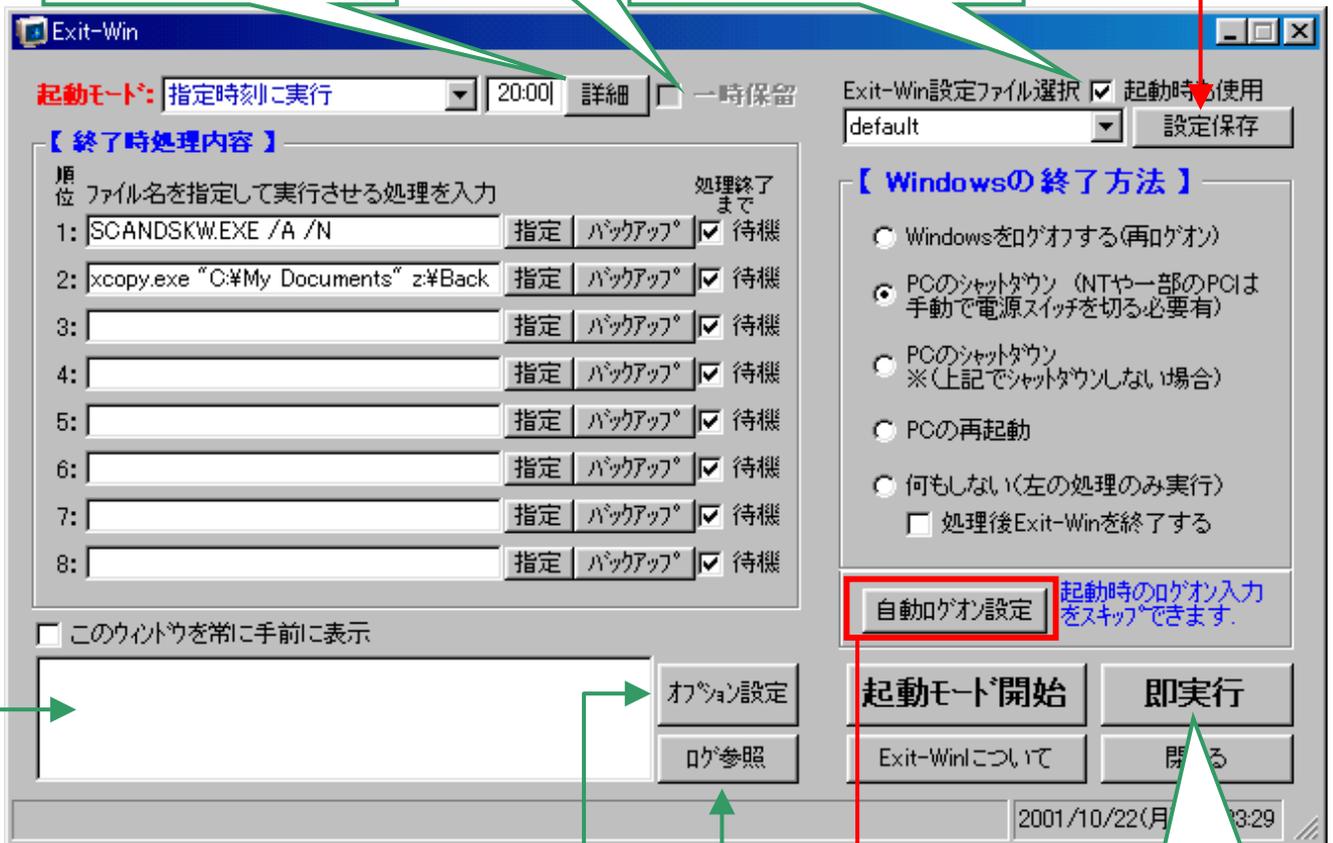
基本操作で説明していない機能を解説します。

タイマー作動中、一時保留(ホーズ)したい時にチェックを入れてください。

一ヶ月または一週間毎の実行スケジュールを設定。  
次ページに詳細説明。

現在の動作設定を保存します。複数の動作を保存しておくことが出来ます。保存した設定は、「Exit-Win設定ファイル選択」で呼出したり、スケジュール設定で活用できます。次ページ参照。

選択中の設定ファイルを起動時に使用したい場合。



現在の作業状況 (ログ) を表示します。

動作の各種設定を行います。次ページ参照。

これまでの作業状況 (ログ) を表示します。

**重要**：起動モードを「即、実行」にした場合、場合に寄っては次回起動以後、設定画面を出すことが出来なくなります。その場合コントロールキーを押しながら起動させると実行をキャンセルして設定画面が現れます。

設定内容を即実行します。

WindowsNT や 2000 などでは、起動時にログオン画面でユーザー名とパスワードの入力を求められますが、それを自動でログオンさせることが出来ます。このボタンをクリックして、ユーザー名とパスワードを入力してください。Ver.1.3.0 よりドメインへのログオンも可能。

## ◎スケジュール設定

起動モードで「指定時刻に実行」を選んだ場合、特定の日付や曜日だけを指定可能になります。更に、設定内容を複数保存して、日付・曜日毎に特定の処理を割り当てることも出来ます。

例) 以下の設定の場合、処理は毎月1日・10日・20日・月末の4回の通常処理と毎週日曜日に特別割当(曜日が赤字)処理を行います。

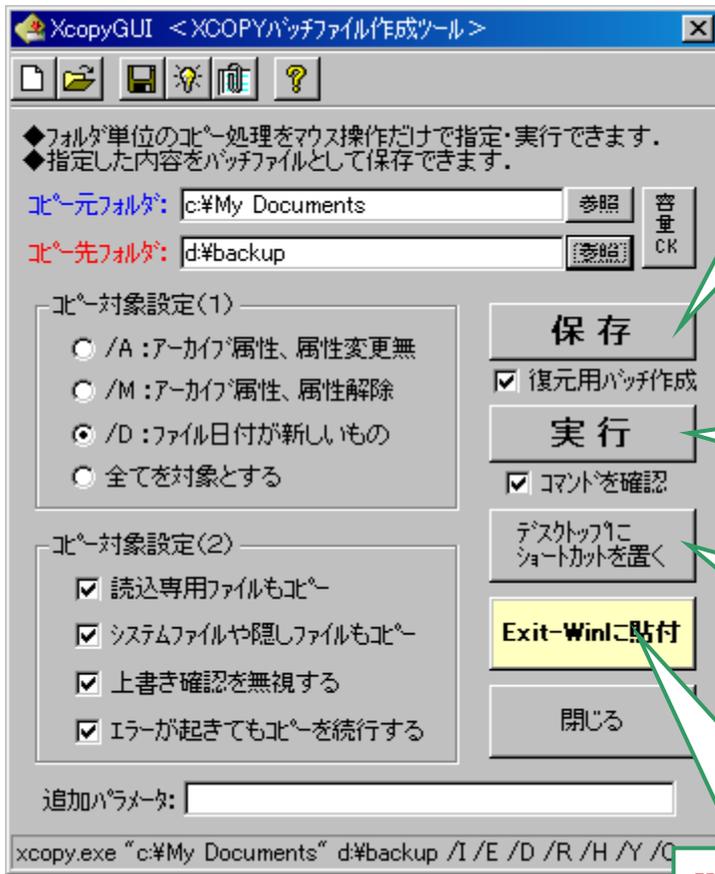
## ◎オプション設定

Exit-Win の動作設定を行います。

|   | 項目                          | 内容                                                              |
|---|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 1 | アプリケーションへの通知を行わない(強制終了)     | 終了処理の際、アプリケーションを強制終了させ、作業途中のデータが破棄されます。                         |
| 2 | 自動処理中は最小化する                 | Exit-Win が動作すると最小化して待機します。                                      |
| 3 | 自動処理による終了時、実行確認メッセージを常に表示する | 終了処理を始める直前に、確認メッセージを出します。その場合でも、一定時間経つと自動で処理を始めることが出来ます。        |
| 4 | ログをファイルに出力する                | 作業内容をログファイルに書き出します。<br><a href="#">Ver.1.5.0 よりログをメールで送信可能。</a> |
| 5 | 自動処理中に閉じる時、確認メッセージを出す       | うっかり閉じてしまうミスを防ぐ目的ですが、Windows 終了時に、一々確認メッセージが出て煩わしい場合は解除してください。  |
| 6 | 「指定アイドル時間後、実行」のアイドル時間       | マウスやキーボードから何の入力も無い状態をアイドル状態と呼びます。その時間を指定します。                    |

## 4. XcopyGUI の画面説明

基本操作で説明していない機能を解説します。



Xcopy の処理内容を BAT ファイルとして保存します。  
 「復元用バッチ作成」では、コピー元とコピー先を入れ替えた BAT ファイルを作成します。  
 ※ファイルはプログラム直下の BAT フォルダに保存されます。

Xcopy の処理内容を即実行します。  
 「コマンドを確認」では、実行前にコマンドを表示し、編集できます。

Xcopy の処理内容を BAT ファイルとして保存しながら、デスクトップにショートカットを置きます。ショートカットには自由な名前を付けられます。

XcopyGUI 単独で起動した場合には表示されません。

ツールメニュー



- 新規作成
- BAT ファイルを開く
- 保存
- 実行
- デスクトップにショートカット作成
- バージョン情報と操作ガイド

## 付録 A : Exit-Win よく使われるコマンド例

### ・ スキャンディスク

①Windows95・98・Me の場合

(一例) SCANDISK.EXE /A /N

**scandisk [drive:][/A][/N][/P]**

/A or /All = すべてのローカルの固定ディスクドライブ

/N or /NonInteractive = 自動的にスタートし終了します

/p or /Preview = プレビューモードで起動します

②WindowsNT・2000 の場合

スキャンディスクはありません。代わりに CHKDSK.EXE(チェックディスク)があります。  
コマンドプロンプトから `chkdsk /?` と入力するとヘルプが出ます。

※ Administrators 権限がないと実行されません。また、システムドライブなどは  
次回起動時に実行されます。

一例) Cドライブをチェックし、ディスクのエラーを修復

CHKDSK.EXE C: /F

### ・ デフラグ

①Windows95・98・Me の場合

(一例) DEFRAG.EXE /ALL /F /NOPROMPT

**defrag [drive:|/all] [/F] [/U] [/Q] [/noprompt] [/concise] [/detailed]**

drive: = 最適化するドライブ文字列

/all = すべてのローカルドライブの最適化(リムーバブルは除く)

/F = ファイルと空き領域を最適化

/U = ファイルだけを最適化

/Q = 空き領域を最適化

/noprompt = ユーザの介入なしに動作します(最適化がいきなり始まります)

/concise = 詳細表示をしません(既定値)

/detailed = 詳細表示を行います

②WindowsNT の場合

デフラグはありません。

③Windows2000,Vista,2008 の場合

デフラグはありますが、コマンドラインから実行できるようなプログラムではありません。

④Vista,Windows Server 2003 の場合

**defrag drive: [-a] [-f] [-v]**

-a(分析のみ)、-f(最適化)、-v(詳細を出力)

※Exit-Winの「指定」ボタンで簡単に指定できます。(Ver. 1.2.0以降)

## 付録 B : xcopy パラメータ一覧

XCOPY 送り側 [受け側] [/A | /M] [/D:日付] [/P] [/S] [/E] [/W] ...

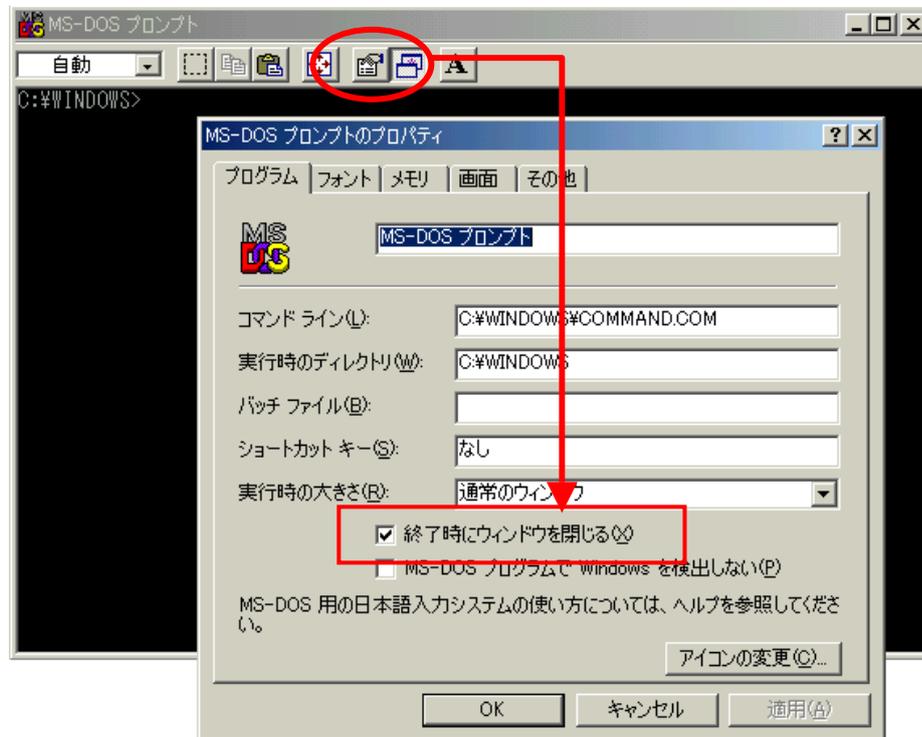
送り側 コピーするファイル(複数可)を指定します。  
 受け側 新しいファイルの場所と名前を指定します。  
 ※[パラメータ]は任意記述

| Xcopy のパラメータ内容                                                | Xcopy のパラメータ    |           |             |
|---------------------------------------------------------------|-----------------|-----------|-------------|
|                                                               | Windows95/98/Me | WindowsNT | Windows2000 |
| アーカイブ属性のファイル属性は変更無                                            | /A              | ←         | ←           |
| アーカイブ属性のファイル属性は解除                                             | /M              | ←         | ←           |
| 指定された日付以降に変更されたファイルをコピーします。日付が未指定は、送り側が受け側より新しいファイルだけコピーされます。 | /D:日付           | /D:月-日-年  | ←           |
| 受け側のファイルを作成する前にプロンプトを表示します。                                   | /P              | ←         | ←           |
| 空のものを除いてサブディレクトリもコピーします。                                      | /S              | ←         | ←           |
| 空であるものも含めてすべてのサブディレクトリをコピーします。                                | /E              | ←         | ←           |
| 書き込んだ各ファイルを検証します。                                             | 無               | /V        | ←           |
| コピーする前にキーを入力するためのプロンプトを表示します。                                 | /W              | ←         | ←           |
| エラーが起きてもコピーを続けます。                                             | /C              | ←         | ←           |
| 受け側がなく、複数のファイルをコピーする場合、受け側をディレクトリとしてコピーします。                   | /I              | ←         | ←           |
| コピー中にファイル名を表示しません。                                            | /Q              | ←         | ←           |
| コピー中に受け側と送り側のパスおよびファイル名を表示します。                                | /F              | ←         | ←           |

|                                                                                |     |    |     |
|--------------------------------------------------------------------------------|-----|----|-----|
| コピーするファイルを表示します。                                                               | /L  | ←  | ←   |
| 隠しおよびシステムファイルもコピーします。                                                          | /H  | ←  | ←   |
| 書き込み禁止ファイルも上書きします。                                                             | /R  | ←  | ←   |
| ディレクトリだけ作成して、ファイルはコピーしません。送り側が空のディレクトリは作成されません。/T と /E を指定すると、空のディレクトリも作成されます。 | /T  | ←  | ←   |
| 受け側にあるファイルを更新します。                                                              | /U  | ←  | ←   |
| 属性をコピーします。通常、書き込み禁止属性は解除されます。                                                  | /K  | ←  | ←   |
| 確認のプロンプトを表示せずにファイルを上書きします。                                                     | /Y  | 無  | /Y  |
| ファイルを上書きするか確認するためのプロンプトを表示します。                                                 | /-Y | 無  | /-Y |
| 短いファイル名を使ってコピーします。                                                             | /N  | ←  | ←   |
| 再起動可能モードでネットワークファイルをコピーします。                                                    | 無   | /Z | ←   |
| ファイルの所有権と ACL 情報をコピーします。                                                       | 無   | 無  | /O  |
| ファイル監査設定をコピーします (/O を含む)。                                                      | 無   | 無  | /X  |

## 付録 C : MS-DOS 画面とスキャンディスクの自動終了

■Exit-Win を実行したときに、バックアップ作業中に出た MS-DOS 画面が閉じないことがあります。この場合は下図のように MS-DOS プロンプトのプロパティから「終了時にウィンドウを閉じる」にチェックを入れてください。(図は WindowsMe の場合。95/98 も同様。NT や 2000 は不要)



■スキャンディスクは処理後、スキャン結果を表示します。これだと Exit-Win 等で他の処理と連続して行いたい時に、処理が止まってしまいます。エラーがあれば止まるのも仕方ありませんが、問題がない場合に止まらないで閉じる方法があります。下図のように「結果の表示」を「エラー時のみ」にします。(図は WindowsMe の場合。95/98 も同様。NT や 2000 は不可)

